

第十四回運営推進会議アンケート

◎今後の運営方針について

この書面における参加者は、デイサービスセンターえがお・寺島区長・地域包括支援センターよしだ・糸魚川市役所福祉事務所の 4 拠点となります。以下の項目につきまして、それぞれのご意見をご記入下さい。お手数をおかけしますが、宜しくお願い致します。

※なお、本年 9 月開催予定の運営推進会議より、一堂に会しての開催を予定しております。

1、利用者様数の推移について

昨年 9 月から本年 2 月までの利用者数の推移は 1 日平均 12 名となっております。利用者数は減少傾向にあり、利用登録者数も昨年 9 月から本年 2 月までの平均で 38.5 名となっており、前年同月比ではマイナス 4.3 名（前年 42.8 名）と利用者数の減少が止まらない現状です。

◎地域包括支援センターよしだ様

デイサービスの利用者数は、それぞれの事業所によって違いがあると思います。事業所によっては定員一杯で新規の利用者の受け入れが難しいとお返事いただく事もあります。新規利用者の受け入れを積極的に働きかける方法として、包括や、居宅介護支援事業所に「空き情報」を出しているところもあります。そういったことで、利用者の安定した確保も期待できると思います。

2、現状のえがおの問題点について

（ 令和 5 年 3 月 25 日現在 ）

上述の通り、利用者数減少に伴い、介護スタッフ・その他スタッフ及び設備が余剰状態となっており、一方で配置基準が定められている看護師 2 名については、高齢化・持病などにより、いつ退職となるか不透明な状況での運営を強いられております。看護師募集については、どの施設も共通課題だと思われませんが、ハローワーク糸魚川によれば、看護師として職探しの登録をしている方はここ数年いらっしゃらないとの回答でしたので、欠員補充は困難を極めることが予想されます。看護師は機能訓練指導員も兼ねている為、糸魚川において機能訓練指導員の採用は看護師以上にハードルが高いことから、事業の継続が不可となります。

介護スタッフにつきましては、1日平均12名の利用に対して、1日平均2.5名の職員を配置しており、人員基準とは関係なく、安全面の問題（一般浴と機械浴）に加え、社会保険の縛りや個人の収入希望等により人件費削減に取り組めていない現状があります。その他、送迎車・車椅子・歩行器等の物品も余剰状態となっており、とりわけ送迎車のハイエースにつきましては、保険・車検といった維持費の負担が重い状況です。

前回の運営推進会議でも触れましたが、えがおにおいては、デイサービスのみの利用からショートステイとのサービスの併用又はショートステイのみ・施設入所への切替が多く、利用者数が回復しない原因ともなっています。人員・設備・備品・営業日数等、運営体制について、ご意見を頂ければ幸いです。

◎糸魚川市役所福祉事務所様

看護師が機能訓練指導員を兼務している事業所も多いためか、看護師不足については、他の事業所からも話を聞くことがあります。機能訓練指導員は、看護職員のほか、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、柔道整復師などの資格者を有する者になります。ハローワークに看護師登録がないということですが、新潟県ナースセンターに登録している看護師もいるので、ナースセンター支所（上越市市民プラザ2階）に相談してみるのもいいかもしれません。

3、営業時間外の利用者様対応について

（ 令和5年3月25日現在 ）

本年は積雪こそ少なかったものの、水道管の凍結・破損といった被害が、えがおの利用者様宅においても、把握している限り3件発生しました。その1件の中に、一人暮らしの女性利用者様がいらっしゃり、トイレが使えず、たまたまショートステイに空きがあり、修復までの2日間えがおを休まれたことがありました。また、こちらも一人暮らしの利用者様ですが、えがお利用中に熱発され、ショートステイの利用ができず、えがおとしては、サービス提供時間までお預かりすることが精一杯の対応であり、※発熱状態のまま、ご自宅まで送迎したことがありました。担当ケアマネと相談し、急遽翌日もお預かりすることとなり、送迎に行った際、幸い熱は下がっておりましたが、一晩一人で過ごされたことを思えば、命の危険もあったと推察します。

※上越のご親族の方が迎えに来所された後、病院に連れていかれ、受診後、ご親族の方がそのまま自宅まで連れていかれており、当施設がご自宅まで送迎した事実はありませんでした。誤記入、大変申し訳ございません。

こうした突発的な不測の事態が稀には言え発生しており、えがおとしても利用者様にとっても不幸なことから、自然災害発生時や体調変化時に限り、不測の事態が起こった際には、営業時間終了後（午後5時半）、無料開放の方向で検

討中であります。もちろん、スタッフが一晚一緒に過ごすこととなりますが、グループホーム経験者もおり、スタッフサイドからこうした声が上がっております。営業時間終了後（午後5時半）は遊休設備となっており、介護ベッドや入浴はもちろん、食事につきましても、常時30食程度は備蓄もあることから、対応は可能と判断しております。

不測の事態は思い返せば、これまでも稀に発生しており、大雨により青海⇒親不知間の国道8号線が止まり、親不知ICも閉鎖となり、北陸道を利用して、糸魚川ICから一旦朝日まで行き、朝日から親不知へお送りしたこともありました。また、5年前の大雪の際には、利用者様がえがおを利用中に大雪となり、上越に外出されていたご家族が国道・高速ともに通行止めとなった為、糸魚川への帰路が断たれ、夜遅くに親戚の方が迎えに来られたこともありました。今後も年に一度あるかないか程度ではありますが、対応できることは対応したいと考えております。

◎糸魚川市役所福祉事務所

えがお利用時に体調が悪くなった場合の対応はどのようになっているのでしょうか。（利用契約時にどのように説明しているのか）

利用中に体調不良が確認された場合、状況によっては、居宅に帰さず医療機関に直接つなぐ必要もあるかと思えます。医療機関との連携も含め体調不良時の対応を確認いただければと思います。

◎地域包括支援センターよしだ様

営業時間外の対応について、「えがお」さんがお考えの方法を実現できれば、利用したいと思われる利用者・ご家族もおられると思います。ただ、対応される職員さんの負担を十分考慮しご検討いただきたいと思えます。尚、お一人暮らしで体調を崩され夜間一人で過ごされることの危険性などについては、担当の介護支援専門員に問題提起し、そういった事態の時の対応方法を、担当者会議などでご検討されてはどうでしょうか。

4、キッチンえがおの活用について

（令和5年3月25日現在）

前回の運営推進会議において、ヴィラオレッタ1階にありました鳥釜の閉店をお伝えしましたが、現在は『キッチンえがお』として水曜日と日曜日を除く、えがおの営業日において、刻み食やおかゆ等から、アレルギーや好き嫌いの対応まで、一人一人に合わせたお昼ご飯を提供しております。現在は利用日のお昼のみ提供しておりますが、利用日・お昼に関わらず、えがお利用者様に限り、特定少数の『ワンコイン（500円）宅配』を計画中です。但し、弁当作成には数に制限があり（糸魚川保健所に確認したところ、1日19個まで）、現在の利用者数で

言えば、平均 12 名、最大でも 15 名であり、宅配弁当は平均 5 個前後ということになります。基本的には食事の準備が困難な一人暮らし最優先とし、次に老人世帯といった方を対象とする予定です。

宅配弁当の最大の目的は安否確認であり、夏場の冷房や水分補給状況、冬場の暖房チェックなど、宅配を通じて出来る限りの付属サービスを行っていきたいと考えております。実施にあたっては、宅配場所や回数、潜在需要の有無など様々な課題をクリアする必要がありますが、営業終了後の無料開放と併せて進めていきたいと考えております。

◎寺島区長様

※今回分からない点が多いとのことで、デイサービスセンターえがお職員と面談形式にてご意見を頂きました。以下、その要旨となります。

全体的な感想として、書面には出てきていない行間に様々な問題が内包されていると感じた。看護師不足一つとってみても、施設側が抱えている問題は、糸魚川市の取組みによっては解決に繋がる可能性もあるように思う。市外の人員を糸魚川に呼び込む為の施策が不足していると感じる。現在リハビリが必要な私の親族がいるが、糸魚川には対応施設がなく、わざわざ富山まで通っている状況である。こうしたサービスを必要としている方は相当数いるはずだが、調査すら行われていないのが実態である。書面の中に『潜在需要』という言葉が出てくるが、ここに目を向けることが重要だと思う。